

(銀のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

呪いの人形

小二・木村 りん

ある日、お父さんがとうきょうに、しゅっちようをして、いざかやへ行くと、いざかやのすみっこでのんでいた女の人が声をかけてきました。

「あの、よかったらわたしの家にきてわたしがつくった人形をうけとつてくれませんか」と、聞いてきました。おとうさんは、「いいですよ」と言いました。

そして、一週間後、お父さんがしゅっちようがおわってふくおかにかえってきました。すると、お父さんがだしたのは、そうです。あのいざかやのかえりにもらってきた人形です。その人形をわたしに、くれました。そのつぎの日もらった人形に、メグという名前をつけてあそんでいるといもうとのりりが、目をさまして、

「ねえねえおねえちゃん何してるの」と聞いてきました。そして、わたしは、

「きのうお父さんが、しゅっちようからかえってきたときにもらった人形だよ」と、こたえました。すると、

「おねえちゃんいいな。わたしも入れて」とりりが言うのと、「だめ!! だって、りりは、すぐものをこわすから」と言ったら、りりがなきだしてしまって、わたしは、おこられてしまいました。そしてりりが、ガッチャンと音をだして何かをこわしました。

「ほら、言ったでしょうがもう」と言うと、りりは、おこりだして、

「おねえちゃんのバカーおねえちゃんなんか大っきらい」と言って、わたしはむっとして「あっそうですか。わたしだってりりなんか大っきらいだよーだ。べー」と言ったら、りりはお父さんがしゅっちようでもらってきた人形を、パンツと音をたてて、ゆかにたたきつけ、人形の足がへんになったから、

「りりのバカ」と言うと、また人形をゆかにぶつけて、つぎは手へんになってしまいました。その日は大ゲンカで1日すごしてつぎの日、こわれた人形を見たらもうなぜかなおっていました。そして山でかいだんをおりるとき足をねんざしました。それはこわれた人形と同じところをけがしていました。
